

令和6年度第2回今治市地域福祉計画審議会会議録

日 時	令和7年3月 19 日(水) 14:00～15:30
場 所	今治市役所第1別館 11 階 特別会議室1号
次 第	<p>1 会長挨拶</p> <p>2 委員ご紹介</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画アンケート調査結果について</p> <p>(2) 住民座談会について</p> <p>(3) 計画策定委託業務における事業者選定方法について</p> <p>(4) 重層的支援体制整備事業実施計画について</p> <p>(5) 今後のスケジュールについて</p>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・審議会次第 ・配席表 ・令和6年度第2回今治市地域福祉計画審議会(資料)
出席者	<p>(委 員)</p> <p>恒 吉 委 員 越 智 (廣) 委 員 吉 良 委 員 山 本 委 員 細 川 委 員 小 澤 委 員 越 智 (祐) 委 員 森 山 委 員 村 上 委 員 石 崎 委 員 矢 野 委 員</p> <p>(欠席委員)</p> <p>谷 口 委 員 白 谷 委 員 松 田 委 員 門 岡 委 員 岡 田 委 員</p> <p>(事務局)</p> <p>森山福祉政策課長 三浦課長補佐 浮穴係長 塩出主事 小池課長(社協) 八木係長(社協)</p>

福祉政策課長	<p>それでは定刻が参りましたので、ただ今から、令和6年度第2回今治市地域福祉計画審議会を開催させていただきます。</p> <p>私、本日司会を務めさせていただきます、福祉政策課長の森山でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>委員の皆様方には、お忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>本日の審議会は、「第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画アンケート調査結果」、「住民座談会」、「計画策定委託業務における事業者選定方法」、「重層的支援体制整備事業実施計画」、「今後のスケジュール」について、ご審議いただき、午後3時30分を終了予定時刻としております。長時間にわたる会議となりますが、よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、開会にあたりまして、恒吉会長より、ご挨拶をお願ひいたします。</p>
恒吉会長	<p>年度末の大変お忙しい中、本日お集まりいただきましてありがとうございます。令和6年度も残すところあとわずかとなりました。</p> <p>いよいよこの地域福祉計画につきましても、内容を取りまとめていかなければならない、重要な時期になって参ります。</p> <p>皆様方もご承知のように、この計画策定につきましても法律で、地域住民の方々の声を反映させるよう努めなければならないということから今回も、住民を対象としたアンケート調査を実施しております。</p> <p>今日はその内容について、皆様方から忌憚のないご意見をいただきながら、今後の計画の内容に反映させていきたいと思っておりますので、ご協力の方よろしくお願ひいたします。</p>
福祉政策課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは引き続きまして、本日ご出席いただいております委員のご紹介を、事務局よりさせていただきます。</p> <p style="text-align: center;">(委員紹介)</p> <p>以上、16名の委員のうち、11名の委員に本日ご出席いただいております。</p> <p>なお、本日、5名の委員が所用のため欠席されております。</p> <p>続きまして、事務局職員をご紹介させていただきます。</p>

(事務局紹介)

それではこれから議事に入りたいと思います。

まず、今治市附属機関等の会議の公開及び傍聴に関する要綱及び、今治市附属機関等の会議録の作成及び公開に関する要綱に基づきまして、会議と議事録の公開を行うこととしておりますので、あらかじめご承知いただきますようお願いいたします。

それでは審議に入ります前に、本日、机上にお配りした資料の確認及び、事前に送付しました資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

事前配布資料をお忘れの方は、事務局に予備がございますので、遠慮なくお申し出ください。

それでは、これより後の議事進行につきましては、恒吉会長にお願いしたいと存じます。

恒吉会長、よろしくようお願いいたします。

恒吉会長

それでは、私の方で進行させていただきます。ご協力のほど、よろしくようお願いいたします。

会議は、お手元の議事次第に従って進行いたします。

それでは、議事の1番目「第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画アンケート調査結果」について、事務局より説明をお願いします。

事務局 (浮穴)

それでは、第4期今治市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定のためのアンケート調査結果についてご報告いたします。お時間の都合により、事務局より要約してご説明させていただきます。

資料1-1、市民アンケートの1ページをお開きください。調査概要についてでございます。第4期今治市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定の基礎資料とするため、令和6年12月6日から令和7年1月6日にかけて、18歳以上の市内在住者3,000人を対象にアンケート調査を実施しました。回収数は1,208件、有効回収率は40.3%となっております。

10ページをお開きください。以降、主にグラフにてご説明いたします。今治市に住んで通算何年になるかを聞いたところ、「30年以上」が74.3%と最も高い数値となっております。11・12ページをお開きください。今後の居住意向につきましては、「今治市に住み続けたい」と答えた方の割合は、「今住んでいる所に住み続けたい」、「今治市内のどこかに住み続けたい」と答えた方の合計が80.1%

おり、年齢が高いほど住み続けたいと回答する割合が高くなっています。13 ページをお開きください。今後も住み続けたい理由について聞いたところ、「自分の土地や家がある」が最も多く、次いで「近くに家族、親族がいる」、「気候、風土、自然環境が気に入っている」となっています。16 ページをお開きください。一方、今治市に住み続けたくない理由として、「買い物や交通の便が悪い」が最も多く、次いで「楽しめる場所がない」、「福祉、医療などのサービスが整っていない」となっています。19・20 ページをお開きください。日常生活に関することで困ったり不安に感じていることについて、ウ「自分や家族の介護」、キ「災害時の避難訓練」、ケ「健康状態」について、半数以上の人々が「将来の不安」に挙げています。

33 ページをお開きください。「福祉について」の設問でございます。

「福祉」の分野の中で最も関心が高いのは「高齢福祉」で73.8%、次いで「防犯・防災」、「経済的な困窮」となっています。36 ページをお開きください。「福祉」に関する情報は、「市の広報」との回答が最も多く、次いで「テレビ」、「インターネット、SNS」となっています。39 ページをお開きください。「福祉」について理解を深めるためには、どのような機会が必要ですかとの問いに、「福祉の制度、サービス、理念や考え方を学習すること」と答えた割合が最も高く、次いで「地域で福祉についての課題を気軽に話し合える場をつくること」、「介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたこと、交流したりすること」となっています。

41 ページをお開きください。「地域や隣人とのかかわりについて」でございます。

困ったときに、どのように頼るかを聞いたところ、「家族・親族」が最も高く87.8%、次いで「友人・知人」、「病院・診療所」となっています。44 ページをお開きください。日頃どれくらい近所付き合いをしているかについては、「ごくたまにあいさつを交わす程度」が58.1%で最も高く、次いで「毎日あいさつはするが、会話はしない」が18.3%、「毎日いろいろな事を話し合う」10.4%、「近所付き合いがない」が10.2%となっています。46 ページをお開きください。もし日常生活が不自由になった場合、近所の人に手助けしてほしいと思うことは何かを聞いたところ、「安否確認の声掛け」が46.9%で最も高く、次いで「災害時の避難支援」、「買い物やゴミ出し」、「相談相手」の順となっています。50 ページをお開きくださ

い。一方、もし近くで困っている世帯があった場合、どういった手助けを行えるか聞いたところ、「安否確認の声掛け」、「災害時の避難支援」、「買い物やゴミ出し」、「相談相手」の順となっており、回答の割合が一致しています。

54 ページをお開きください。「地域活動について」の設問でございます。

清掃、運動会、お祭り、ボランティア、その他地域行事などの地域活動に参加している人の割合は、「積極的に参加している」、「参加している」、「誘われたら参加している」人の合計 46.6%、参加していない人の割合は「あまり参加していない」、「参加していない」の合計 43.7%で割合はほぼ同程度となっています。56 ページをご覧ください。参加した地域活動は、清掃活動が最も多く、77.8%、次いで「お祭り」、「自治会活動」、「スポーツ・健康活動」の順となっています。59 ページをお開きください。地域活動に参加した理由を聞いたところ、「地域や社会に貢献したい」と回答した者が 45.0%と最も高く、次いで「当番等となった」、「活動に参加している人から誘われた」、「交友関係を広めたい」となっています。62 ページをお開きください。一方、地域活動に参加しない理由としては、「参加する時間がない」と回答した人が 43.8%で最も多く、次いで「人間関係がわずらわしい」、「興味・関心がない」、「健康に不安がある」といったことが挙げられています。65 ページをお開きください。今後、どのような条件が整えば、地域活動に参加できるかとの問いには、「時間や経済的なゆとり」と答えた方が最も多く 53.2%、次いで「自分の健康」、「メンバー同士の良好な人間関係」、「情報の提供」の順となっています。

68 ページをお開きください。「社会問題について」の設問でございます。

69 ページにグラフを掲載しております。重要であると思う社会問題については、8 「地域の防犯対策」、9 「災害時における支援体制」、19 「交通弱者の移動手段の確保」において「そう思う」と答えた方が半数を超えています。

103 ページをお開きください。「今治市の施策について」の設問でございませう。

安心して暮らすことができる地域社会の実現に向けて住民の取組で必要なことについて、「近隣住民と日常的な対話や交流を広げる」と答えた人が 58.9%で最も多く、次いで「自治会が住民の身近

な暮らしや、健康・安全・防災・防犯などの問題に取り組む」、「高齢者や障がい者と子ども・若い人たちとの交流を広げる」となっています。

106 ページをお開きください。今治市の施策の中で優先して充実させることについてです。107 ページをお開きください。「通院や買い物などに必要な交通手段の充実と答えた人が 37.7%と最も多く、次いで「身近なところでの総合的な相談窓口の充実」、「住民が共に支え合う仕組みづくりへの支援」、「災害時における地域住民による支援体制の充実」となっています。

市民アンケートの概要は以上となります。

続きまして、資料 1－2、団体・事業所アンケート調査の 1 ページをお開きください。調査概要についてでございます。市民アンケートと同様、令和 6 年 12 月 6 日から令和 7 年 1 月 6 日にかけて、市内福祉関連 300 団体を対象にアンケート調査を実施しました。回収数は 185 件、有効回収率は 61.7%となっております。

6 ページをお開きください。アンケートに回答いただいた事業所のうち、活動分野については、「高齢者支援」の割合が最も大きく、次いで「子供への支援」、「障がい者支援」となっています。続きまして、15 ページをお開きください。団体・事業所の地域住民の行事へは、「積極的に参加している」、「参加している」の合計 64.9%の団体が参加しており、前回調査より 2.1 ポイント低くなっています。19 ページ・20 ページをお開きください。地域の抱えている課題やニーズの把握は、「積極的に把握している」、「把握している」の合計 57.3%の団体・事業所が把握しており、団体区分で見ると「社会福祉法人」が最も高く、次いで民生児童委員、NPO 法人の順となっています。36 ページをお開きください。今治市の施策の中で優先して充実させることは、「活動を市民に知らせるための広報や情報提供」との回答が最も多く、次いで「活動についての相談や関係者の調整などを行う人的な支援」が挙げられています。39 ページ・40 ページをお開きください。今後、地域での福祉活動を活性化させるための取組は、「隣近所の住民同士の普段からの付き合い」の割合が 33.5%で最も高く、次いで、「地域活動の中でのリーダーや福祉活動に携わる人の育成」、「地域で活動されている人たちとの連携づくり」となっています。

団地・事業所アンケートの概要は以上となります。

ご説明は以上です。

恒吉会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま、第4期地域計画アンケート調査結果の概要をご説明頂きました。調査の結果を受けて、皆様方から何かご意見、ご質問ございましたら。</p>
吉良委員	<p>市民アンケートの回収率 40%とありますが、これは普通なのでしょうか。</p>
事務局	<p>こちらの回収率についてなんですけれども、令和元年の調査が43.9%ということで、今回、回収率は若干下がったところになります。</p> <p>ただ、こちらのアンケート調査の回収数で、必要なサンプル数というのがございますが、一般的なアンケート調査の場合は、大体誤差が5%の範囲内であれば、信頼できる結果とみなすことができるということがございまして、今治市の人口規模であると、大体400件程度で、誤差の5%以内に入ります。</p> <p>ですので、今回は、それを大きく超える結果になりますので、データは十分信頼できるものとはなりません。</p>
恒吉会長	<p>私の認識としても、こういったアンケート集計の回収率は30～35%程度なので、十分な回収率だと思われれます。</p>
森山委員	<p>見せていただいた大まかな感想にはなりますが、地域活動の中で隣近所との関係性や、活動への参加、その必要性とか、或いは防災関係なんか皆さんも、そういう認識を持たれています。</p> <p>私は、いろいろ連合自治会で話し合いをするのですが、私自身、大変気になっているのは、こういうふうに、いろんなことをやっていくために、自治会活動も活発に、或いはみんなが参加するいうか、基本的にはやっぱりそういうことがベースになっていないと、なかなかそういった地域の中で皆と知り合うとか、防災対策を整えていくとか、バラバラではできないです。</p> <p>そういう中で最近やっぱり単位自治会長のあたりになってリーダーとしてやっていく、そういう人がだんだん少なくなっているのです、そう具体的に言いますと、郡部と旧市内で体制が違うと思うのですが、旧市内であれば、単位自治会長さんが1年交代、或いは半</p>

	<p>年交代で変わっていくという話をよく聞きます。</p> <p>郡部には総代制というのがまだ残っているので、2期3期をやるのが普通、そうしないと仕事にならないという状況で、地域の中でそう皆さんが自治会から参加するためには、きちんとしたリーダーも養成できないといけないし、ただ広報を配るだけの感覚で、1年経ったらまた次の隣の人へという話ではなかなか、今後の自治会活動はできない。</p> <p>そこらをやっぱりどういうふうにして、これから地域のことを地域でやっていくためには、皆が課題意識持ってやっていくことが、大切なのだと思います。</p> <p>参加についても、参加者は、自分がお客さんだという感覚があると思うので、それではいけない、皆当事者意識をもつ必要がある。そういったことを感じました。</p>
恒吉会長	<p>ご意見ありがとうございます。ただいまの意見について事務局から何かございますか。</p>
事務局	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>アンケート調査の、今治市が進めていく施策の中にも、地域活動の中で、「福祉活動に携わる人の育成」が必要だという結果も出ておりますので、こちらも念頭に入れた形での計画の策定に取り組んでいきたいと思えます。</p>
恒吉会長	<p>どこの地域でも同じような課題抱えている、人口がどんどん減っていく中でいかにその地域の担い手やリーダーを養成していくかということで、幅広い年代の方々に対して、地域の課題を認識したり、関心を持っていただくような仕掛けを計画の中にも盛り込んでいく必要があると思えます。</p> <p>様々なところで、同じようなご意見が出てきますね。</p> <p>他に何か、ご意見ございますでしょうか。</p>
小澤委員	<p>今年度20周年記念で、結構今治市全体が盛り上がったと思えます。今年だけかもしれないし、継続されるかもしれませんが、例えば、私たち大西なんですけど、大西や菊間、朝倉とかそれぞれの地域でなんか有志が集って、盛り上げようと活動しています。</p> <p>だからそれが、来年も続くのかと思いつつ、町を盛り上げよう</p>

	<p>という意識の高い人たちが頑張っていたので、それが継続されるんだったら、地域の支え合いが広まっていくような気はします。</p> <p>市役所の中に 20 周年記念事業部が出来て、多くの職員が勤めていましたが、それが、来年は解散するのか、継続するのかでまた違うと思います。</p> <p>市役所の職員さんも人手不足だとお聞きしていますが、そのところをちょっとうまくしたら、地域ごとに盛り上がって、今治全体の盛り上がりがあるのかなと思って、期待しているところです。</p> <p>部署が違うからお答えしにくいところもあるかもしれませんが、その連携があったらまたできていくのではないかなって気はしています。</p>
恒吉会長	<p>ただいまの意見に対して事務局からご意見あれば。</p>
福祉政策課長	<p>今年度 20 周年記念ということで、各地域で盛り上がった機運につきましては、来年度も継続して、今年とは違う形でそういった事業があると聞いております。</p> <p>課としましては、各支所単位や地域単位で継続して地域力の向上ということは、市役所にとっても重要な施策になりますので、そういった観点から継続してやっていくものと聞いております。</p> <p>以上でございます。</p>
恒吉会長	<p>地域住民の繋がりを作るきっかけのひとつとして、地域のいろいろなお祭りやイベントが考えられると思います。</p> <p>人が集まってその中からと繋がりが生まれてくるっていうところがありますので、そういう活動を、行政側も支援するような仕掛けというのは、当然大事なことで、ぜひまた継続して、地域が盛り上がるような仕掛けづくりをしていただければと思います。</p>
森山委員	<p>団体・事業所アンケート調査結果の 15 ページですが、団体（事業所）として地域住民の行事や集まりの参加について、自治会側からいうと、例えば清掃活動やお祭りなど、人手のいるところに、地元の会社に参加してもらっている事例はあります。</p> <p>企業側もそういったことには“協力しなければならない”意識があって、参加してくれる。</p> <p>ただ、率直に申し上げて、アンケート結果の積極的に参加してい</p>

恒吉会長	<p>るのが 120、参加していない方が大体 65 ぐらいで、参加してる側が倍くらいになっていますが、そこまでの感覚はないです。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。ただ今のご意見について、事務局からコメントございますか。</p>
森山委員	<p>今回事業所アンケート調査で、調査依頼をかけさせさせていただいた 300 団体については、福祉関係の団体が非常に多いところもございまして、(地域行事に) 参加している割合が比較的高く出ているのだと思います。</p> <p>ただ、これからの地域福祉を考える場合に、委員さん言って頂いたいわゆる福祉に関係ない、民間事業者の積極的な参加も、これから求めていかなければなりませんので、そういったところは、また、計画のところで、反映させていただきたいと考えております。</p>
吉良委員	<p>自治会からの求めに応じて協力してくれる民間事業者もあるが、ごく少数で、相手にされない場合もある。人口減少のなかで、自治会の積極的な働きかけが必要かと思っている。</p> <p>森山さんのご意見すごく貴重だと思うのですが、ただ、最近企業では、パワハラや時間外勤務に対する若者の意識が高いです。</p> <p>だから私たちも、若い子に気をつけて指導する必要があります。</p> <p>本当は企業としても、トップは、協力して欲しいと考えていても、休みの日に仕事以外を頼みにくい雰囲気、日本全体にあると思います。</p> <p>だからその辺も、何か仕掛けを上手くして、今治の良さを出せていければと。</p> <p>ただそれが様々なハラスメントという言葉に置き換えられて、今若い子は淡白な人たちが増えているように感じます。</p>
森山委員	<p>今のご意見ごもっともだと思います。私たちが依頼する清掃活動は日曜日が多いです。</p> <p>それで会社として上役の人が部下に行ってくれないかというのはものすごく言いにくい。</p> <p>だから、そういった風土を作っていくということになると国自体の話になるかもしれない。</p>

	<p>ただ、自治会として企業に協力して欲しいということは、あなたが間違えてもいないので、人が減っていくなか、社会の仕組みとして考える必要もあるような気がします。</p>
吉良委員	<p>おっしゃる通りだと思います。 今、市がいろいろしていることに、うまく乗っていくとか、雰囲気少しあると思いますが、単発で終わっているように感じます。</p>
森山委員	<p>会社から強制されるのは確かに嫌だと思います。 だけど、ボランティア団体に自主的に参加していて、好きで海岸の清掃等をされている方もいます。</p>
吉良委員	<p>そういった成功体験を集めて広げていければいいのかと思います。 私たちはそれが何かわからないのですが、それぞれの地域単位で良い体験があるのだったら、他の地域に広げていくような、橋渡しを行政の方がしていただければ良いのではないのでしょうか。</p>
恒吉会長	<p>ありがとうございました。 今ご意見ありましたように、限られた機関だけで、地域課題の解決はできませんので、関係以外の企業や、地域資源に参画していただけるかというところは、重要な課題になってくるかと思います。</p>
	<p>続きまして、次の議題に入りたいと思います。</p>
事務局（社協）	<p>議題の2番目の住民座談会について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
	<p>それでは、今治社会福祉協議会から、資料2の第4期地域福祉計画、地域福祉活動計画第1回住民座談会の報告をさせていただきます。 資料2をお願いいたします。 1回目の座談会は、第3期地域福祉計画・地域福祉活動計画の評価をしていただきました。 1ページをお開きください。 評価項目については、地域福祉計画の4つの基本目標を共通目標</p>

とし、地域福祉計画の施策の方向と、地域福祉活動計画の活動目標を整理し、2ページにあります、9つの評価項目で評価させていただきました。

この9つの評価項目ごとの必要性、効果性、認知度について、最も高い評価を4点、最も低い点数を1件として、住民座談会の参加者に評価をいただきました。

延べ約1200人に項目の評価をいただき、3000あまりの貴重な意見をいただきました。

まず、2ページの下の表をご覧ください。

必要性はどの項目も高い評価をいただきましたが、効果性と認知度は2点台と、ともに低い結果となりました。

項目1から項目9まで、簡単に説明させていただきます。

3ページをお開きください。

項目1、みんなが住みやすい地域づくりです。

この項目では、福祉に対する意識の醸成や、すべての人が住みやすい環境の整備を目指したものとなっています。

地域活動に関する課題では、活動への参加者の固定化と高齢化、多世代の交流不足が上がりました。

また、違いの尊重と言いながら、多様性への理解不足が挙がりました。

これらの改善策として、講座や福祉教育を通じた知識の普及や企業との連携による理解の促進、高齢者の経験を若い世代に伝える機会の創出などの意見がありました。

5ページをお願いします。

項目2、情報発信と参加しやすい仕組みづくりです。

情報伝達に関する課題は9つすべての項目に共通して、必要な人に必要な情報が届いていないのではないかという意見がありました。

また、高齢者のデジタル機器操作への不安や抵抗感、情報発信手段の多様化による混乱、デジタル化による地域コミュニティの希薄化への懸念があるとの意見もありました。

改善策として、世代別の情報発信手段の活用、情報内容の精査と整理、必要な人に必要な情報が届く仕組みづくり、防災ラジオの活用、イベント等の日程調整などの意見がありました。

7ページをお願いします。

項目3、介護予防と見守り体制づくりです。

課題としては、高齢男性の居場所、コミュニティ不足、見守り対象者の多様化、介護予防活動参加者の偏り、民生委員や見守り推進員の負担増、関係機関との連携不足などが挙げられました。

改善策は、サロン活動、ラジオ体操、お祭りなどでの地域住民との繋がりを生かして、世代間の交流機会の創出や、継続性のある介護予防活動の確保ができるのではないかと、就労やボランティアも介護予防に繋がるのではと、生活の延長線上に介護予防の意識を持つことなどの意見もありました。

9 ページをお願いします。

項目 4、地域の支えあいづくりです。

課題としては、コロナ禍による冠婚葬祭の変化、個人情報保護への過剰な対応、マンションなど集合住宅での自治会加入率の低下など、地域コミュニティの希薄化が多く上がりました。

地域住民が何に困って、生活のしづらさを感じているのか、困りごとの把握不足もあるのでは、との声もありました。

改善策としては、食事会や趣味活動などの交流機会を作ったり、新しい住民へ地域活動参加の声かけを行い、顔の見える関係づくりを行う、また、支援者をサポートする仕組みや、行政、社協、専門機関の連携強化も必要であるとの意見がありました。

11 ページをお願いします。

項目 5、災害時の助け合いと体制づくりです。

課題としては、災害への危機感の欠如、訓練の参加率の低さ、マナー化、世代間の意識差、災害弱者への配慮不足が挙げられました。

固定化した参加者だけではなく、若年層の参加促進をすることで、参加の幅が広がるのではとの意見がありました。

また、地域住民間の交流機会を作ることで、顔の見える関係性をつくり、災害時にも、平時にも助け合えるような繋がりの強化を図っていく必要があるとの意見がありました。

13 ページをお願いします。

項目 6、ボランティアや地域の担い手づくりです。

課題としては、高齢化による担い手不足、特に若年層の参加意欲の低下、ニーズとのミスマッチ、地域コミュニティの希薄化などがありました。

住民座談会では、地域住民目線での担い手育成や地域コミュニティの活性化の改善策が多く挙げりましたが、最近では、地域貢献活動をしている法人や企業もあることから、ともに活動する担い手と

して、法人や企業とも繋がりながら、地域のことを一緒に考える機会などを作ることも大切だと感じました。

15 ページをお願いします。

項目 7、一人一人が尊重され活躍できる地域づくりです。

この項目では、子どもや若者、障害のある人の自立、社会参加、権利擁護の推進を、目指した項目となっております。

課題としては、顔の見える関係性の希薄化、転入者との交流不足、制度支援の認知度不足が上がりました。

改善策として、転入者向けの地域紹介イベントの開催や、制度の認知度を向上させるために、身近な場所での情報発信が必要との意見をいただきました。

17 ページをお願いします。

項目 8、相談支援体制の充実です。

この項目では、相談窓口の周知不足、連携不足が挙がり、改善策として、相談窓口のPR月間の設置や、相談のハードルを下げるために、カフェやサロンなどを活用し、相談しやすい雰囲気できれいに相談できればとの意見がありました。

19 ページをお願いします。

項目 9、多様な人への支援体制づくりです。

支援対象者が多様で複雑化しているとの声が多く挙がりました。

外国人住民の増加、ひきこもり、社会参加の困難な人の増加、障がい者、生活困窮者、DV被害者など、またニーズも多様で、その対応が必要になる中、専門職の育成や研修の充実、支援機関同士の連携強化が挙がりました。

それと同時に、人と人との繋がり的重要性に対する意見も多く、交流機会の創出や地域住民が研修に参加しながら、生きづらさを抱えている人を理解していくことが大切との意見もいただきました。

このように、全 9 項目について、様々な意見をいただきましたが、共通したキーワードは、情報伝達、繋がり助け合いだったように思います。

まずは、知っていただくために、情報をどう伝えるか、どう共有するか、何を伝えるかを精査しながら、必要なときに必要な情報が届くようにすること。そして、誰とどのように繋がっていくのか。SNSや対面など、繋がり方も様々です。柔軟な発想で繋がるきっかけを作っていくことが大切だと感じました。

繋がることができれば、お互いの強みを生かしたり、補い合う、

<p>恒吉会長</p>	<p>お互いを気に掛け合う助け合いが生まれ、誰もが安心して暮らせるまちづくりへ取り組んでいけると思います。</p> <p>住民座談会で頂いたたくさんの意見を参考に、今後の地域活動を展開していくと同時に、第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定に活かして参りたいと思います。</p> <p>報告は以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま住民座談会、第1回目の開会の報告ということでした。私も2ヶ所ほど、住民座談会に参加させていただきました。</p> <p>先ほど報告がございましたように延べ1200名という方々にご協力いただいたということで、こういう方々が本当に地域を支えてくださってるんだということを感じながら、参加された方々の、地域課題に対する意向、関心のレベルの高さ、そういったものを感じた次第でした。</p> <p>非常にどの会場も、熱い雰囲気の中で、時間が足りないぐらい、いろんな意見が出ました。せっかくいただいたご意見を、できるだけ計画の内容に反映させていければということを感じた次第でした。</p> <p>それでは、今の報告内容につきまして、委員の皆様方から何かご意見ご質問等ございませんでしょうか。</p>
<p>村上委員</p>	<p>私は吉海から来たのですが、婦人会の活動をしております。</p> <p>私も住民座談会に参加させていただいたのですが、9項目目の多様な人との支援体制づくりについて、島の方はドックの関係で、たくさん外国の方がいらっしゃいます。</p> <p>地域の方との交流というか繋がりというのは、なかなか難しく、ごみ出しの問題とか、ちょっとしたことなんですけれどもトラブルがあったりして、企業の方にきちんと指導していただきたいって言うても、個人のことで、徹底が難しいというようなこともあります。</p> <p>また地域の人との触れ合いというのは、挨拶はとてもよくしてくれますし、作業やお掃除も手伝ってくれたりするんですけれども、言葉の関係もあり、全体的に交流という場がないので、なかなかもう1歩踏み込めないなっていう感じがあります。</p> <p>地域に暮らす人がたくさん増えたのは、大島よりも伯方の方がも</p>

<p>恒吉会長</p>	<p>っと多いと思うのですが、こういう外国の方との、生活の接点というか交流の仕方というのも 1 つ考えていただけたらなと思っております。以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>ただ今の意見について、社協さん何かございますか。</p>
<p>事務局（社協）</p>	<p>貴重な意見ありがとうございました。</p> <p>多文化共生プロジェクトを社会福祉協議会の方で推進しております、外国人が多い地域では、外国人の方と地域の方との交流イベントを開催しております。</p> <p>伯方では開催したのですが、吉海ではまだできていないので、来年度以降も、各地域で、一緒に外国人の方の文化をしっかりと理解しながら、困っていることを共有したり、話し合う機会を作っていきたいと思います。</p>
<p>恒吉会長</p>	<p>人口がどんどん減っていく中で、外国の方々の力を、借りざるをえない状況は続くのではないかと思います。そういった場合に、地域住民の方々と外国の方々の関係づくりがうまくできていかないと、外国の方から選ばれる地域にならないということも言われるので、地域を挙げて協働しながら、関係づくりをしっかりとやっていく必要はあると思います。</p> <p>他に、ご意見、ご質問ございませんか。</p>
<p>森山委員</p>	<p>私も座談会に参加させてもらったのですが、普段から私一番やっぱり気にしているのが、介護予防や見守り体制づくりといった地域の支え合いについてです。</p> <p>ここに書いていますように、高齢者の見守り体制をどのようにしていくかが、これからの課題だと考えております。最近、特に民生児童委員さんや見守り推進委員さんのなり手が少なくなっている。</p> <p>空白地域もあるということで、見守りは、民生児童委員だけが行うのではなく、自治会の中でどのように気を付けていくのかを考えていかなければならない。</p> <p>社会福祉協議会さんに協議体を作ってもらって、幅広い色々なことをやってもらっていますけど、私としましてはここに重点を置いたというか掘り下げたような形で、できるだけ単位自治会レベルで</p>

恒吉会長	<p>いろいろな事を考えていく、そういうことをお願いできたらと思っています。</p> <p>ありがとうございました。</p>
事務局（社協）	<p>地域でどんな困り事があるのかを知らながら、それを支えようとすると、今の時代、支え手に負担がかかることもあるので、それを一人一人の趣味や関心事で、そういうのをカバーしていけるような、そういう発想でも考えて、支え合いづくりを推進していきたいと思っています。</p> <p>貴重な意見ありがとうございました。</p>
恒吉会長	<p>ありがとうございました。ほかにご意見ございますか。</p> <p>座談会にお若い方も出席されているのでしょうか。</p>
石崎委員	<p>中学生、高校生が参加している地区もございます。</p> <p>なるべく年齢層や立場において、幅広い層にご参加いただくようにしています。</p>
事務局（社協）	<p>それでは少し時間も来ておりますので、何かご意見がありましたら最後のところでお伺いできればと思います。</p> <p>それでは次の議題の説明になります。計画策定業務における事業者選定方法について事務局の方から説明をお願いします。</p>
恒吉会長	<p>今治市では、来年度、第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画策定にあたり、業務委託を検討しております。</p> <p>委託の方法につきましては、企画力、想像力、技術力、専門性、経験、価格などを勘案し、総合的な見地から判断して、最適な事業者を選定するため、一定の条件を満たす事業者から当該業務委託に係る企画提案書の提出を受け、原則として、プレゼンテーションまたはヒアリングを実施した上で、当該企画提案書の審査及び評価を行い、当該業務委託の履行に最も適した契約の相手方となる契約候補者を選定する、プロポーザル型方式の採用を検討しております。</p> <p>資料3につきましては、今治市と同程度の人口規模であり、地域福祉計画と地域福祉活動計画を一体的に策定している埼玉県朝霞</p>

恒吉会長	<p>市の地域福祉計画活動計画プロポーザル実施要領を参考資料として提示させていただいております。</p> <p>以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。ただ今の説明について、何かご意見ございますでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p>
事務局	<p>なければ、続きまして議題4、重層的支援体制整備事業実施計画について事務局から説明をお願いします。</p> <p>それでは議題4、重層的支援体制整備事業実施計画についてご説明させていただきます。</p> <p>お手元に資料4、重層的支援体制整備事業実施計画(案)概要版をご覧くださいと思います。</p> <p>令和5年度の審議会においてご報告をさせていただいておりますが、今治市では、社会福祉法改正により新たに創設された重層的支援体制整備事業の移行準備事業を今年度実施しております。</p> <p>来年度から、本事業への本格移行いたしますので、こちらの実施計画についてご説明をさせていただきます。</p> <p>まず、1、計画策定の背景目的についてです。</p> <p>少子高齢化や人口減少、核家族化などに伴って社会構造が変化しておりますので、国の方で、令和3年4月、地域共生社会の実現のための社会福祉法の一部改正により、既存の介護、障害、子ども、生活困窮の相談支援体制などの取り組みを生かしつつ、地域の幅広い支援関係機関の連携のもと、各事業を一体的に実施することで、複合化複雑化した支援ニーズに包括的に対応する支援の構築を目指す取り組みとして明記された事業になります。</p> <p>図の方を見ていただいたらと思います。</p> <p>重層事業は大きく分けて3つございます。</p> <p>まずは、右側の1、相談支援ですが、これは課題を抱えた人や世帯が相談機関に繋がる相談支援を入口としております。</p> <p>そして、課題を抱えた人や世帯が地域と繋がるのが右側2、参加支援という事業になります。</p> <p>またそうした取り組みの下支えとなるのが、一番下に3、地域づ</p>

くりに向けた支援。

こうした事業を一体的に実施するというのが、重層事業になっております。

2計画期間については、重層的支援体制整備事業の実施にあたっては、本市では令和5年1月から、関係各課、市役所の庁内で、各職員が集まり、重層的支援体制整備事業検討連絡会を設置いたしまして、こちらの事業実施に向けて協議を重ねてきております。

こちらの計画につきましても、各分野より意見を出し合って作成いたしております。

来年度本格移行いたしますので、計画期間につきましてもは初年度となるので1年間とさせていただきたいと思っております。

3の事業の実施体制についてです。

大きく図のほうで、3つの事業をご紹介させていただきましたが、具体的には、こちらの資料にある①から⑤の事業が、実際の事業になりましてこちらの事業を一体的に実施して参ります。

なお、多くの事業が既存の事業として、現在も実施しております、来年度の本格移行のためには、現在未実施となっている、⑤の地域づくりの一部事業を新規事業としてスタートして参ります。

右の方のページをご覧ください。

右上のところの図をご覧ください。今治市の重層的支援体制整備事業のイメージ図となります。

①の相談、②の参加支援とし、多機関協働事業ということで実施しているもので、③の地域づくりが右上になっております。

①の入口となる相談が、包括的相談支援事業についてです。

現在ある介護、障害、子ども、生活困窮、その他の相談機関が連携して、相談を受けとめる窓口としての機能を果たしていきます。

こちらは、現在も行っている事業となりまして市内の設置箇所数は、表にある通りです。

裏面をご覧ください。②として、多機関協働事業になります。

これは福祉政策課で、複雑化、複合化した支援ニーズを抱える方の支援機関の支援などを行っております。

③が参加支援事業というところで、これは委託にて実施しております。

④のアウトリーチを通じた継続的支援事業は訪問活動などを、市の方で行っている事業になります。

なお、この②、③、④については、今年度から移行準備事業とし

て実施しているものになります。

⑤の地域づくり事業は、既存の各分野の地域づくり事業、高齢者や障がい者、子どもに関するものは既存の事業となっております。

加えて、来年度より、一番下の生活困窮者支援等のための地域づくり事業を、新たに新規事業として実施する予定としております。

こちらの5つの事業をすべて実施することで、国が定める重層事業に該当いたしますので、来年度から本格移行できるというところになっております。

続いて、右のページをご覧ください。

こちらの重層事業は、それぞれの分野における関係機関がいかに連携をして取り組んでいくかというところが大切なところになっておりますので、そちらの連携体制に関する項目です。

まず(1)として、支援関係機関の連携につきましては、市役所内に重層検討連絡会の方で、検討していきます。

来年度からは、実際に相談支援や地域づくりについて、各機関に参加をしていただいて、部会を設置して連携強化に努めていきたいと考えております。

支援会議や重層的支援会議については個別のケース会のようなものになりますけれども、そちらの方は今年度と同様に進めていきたいと思っております。

そして5つ目、本事業の推進体制についてです。

こちらの重層事業につきましては、市役所で設置している検討連絡会で調整を図り、こちらの地域福祉計画の審議会にて、事業の実施のご報告をさせていただきながら、進捗管理を行っていききたいと思っております。

説明は以上です。

恒吉会長

ただ今、重層事業について事務局からご説明いただきました。この内容についてご意見、ご質問ございますか。

(意見なし)

それでは、続きまして議題5今後のスケジュールについて、事務局の方から説明をお願いします。

事務局

それでは、資料5、第4期地域福祉計画策定スケジュールの資料

	<p>をご覧ください。</p> <p>表の2段目、策定作業につきましては、令和7年5月ごろをめどに、委託業者を選定、福祉関係団体へのヒアリング、各課ヒアリングを行いながら、ワーキングチームで内容を検討し、2月から3月にかけて、市民へのパブリックコメントを募集する予定です。</p> <p>表の3段目、審議会につきましては、来年度4回の予定としており、内容は記載の通りでございます。</p> <p>なお、審議会の委員の皆様は令和7年6月30日となっておりますので、事務局において、審議会委員委嘱をこの時期にお願いしたいと思います。</p> <p>ご説明は以上になります。</p>
恒吉会長	<p>今後のスケジュールにつきまして、委員の皆様、ご意見ございますか。</p>
吉良委員	<p>すごく多く色々なことされていますが、市は電子化を進められていますか。</p> <p>というのも、これだけのこと進めようとする、すごく人手がいると思います。</p> <p>今のスタッフの仕事をいかに減らしてこちらにまわしてもらってというシステムづくりが必要だと思います。</p> <p>電子化できるものはしていった雑用を減らしていかないと、マンパワーが足りなくなる気がします。そのあたりの進捗状況がわかれば教えてください。</p>
事務局	<p>この事業に限らない発言となりますが、DXの取り組みは市全体で進めています。</p> <p>できるだけ省力化できるところは省力化して、一方で福祉は、どうしても対人相談援助において、時間、手間をかける必要があるところもございますので、そういった効率的なやり方の視点を持って取り組みたいと思います。</p> <p>以上でございます。</p>
吉良委員	<p>是非進めてください。</p>
恒良会長	<p>それでは進行を事務局にお返しします。</p>

福祉政策課長

本日は長時間にわたりご審議をいただくとともに、貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。

皆様の意見を踏まえまして、今後、地域に住むすべての市民が生活しやすい社会を作るため、計画策定に取り組んで参りたいと思います。

それではこれもちまして、令和6年度第2回今治市地域福祉計画審議会を閉会させていただきます。

委員の皆様、誠にありがとうございました。